

「一本化」についての三反園候補の対応について

2016年6月2日

事務局長 井上勇治

＜経過報告＞

5月25日に、選対会議で確認しました、政策協議の場の設定について、記者会見を行った上で、三反園後援会事務所に文書を届けました。

5月30日の回答期限日に三田園氏側2名と井上事務局長他1名で申し入れ文書の中身を確認するために非公式の懇談をしましたが、原発を止めた後に「そのまま廃炉」に向かうという点については検討しますとの回答でした。その後、三田園氏側から回答を1日のばして欲しいと要請があり了承しました。

翌日に三田園氏側から電話があり「候補者が地方を回っているので、支持者の意見を集約するのに、時間がかかるので、今週いっぱい伸ばしてほしい。」という要請がありましたが、選挙戦の最中であり、これ以上、待てない状況なので、回答をしてほしいと伝えました。午後5時まで待って回答がないため記者会見で、今回の政策協議は整わなかったと発表することにしました。三田園氏側も「それでいいです。」との返事でした。

川内原発の問題は、県民のいのちとくらしを守る立場で考えると最重要課題と言えます。この問題について、知事候補として、自らの政治姿勢に基づき、確固とした意思を持った上で、それを広く県民に知らせ、支持を訴えていくことが必要であると考えます。

三反園氏は、自らの意思は示さず、支持者の意見を聞き、「廃炉」についての考えを決めるとしています。しかし、原発については、様々な意見があり、それをひとつにまとめること自体が不可能と言えます。結局は、県民のいのちがかかった重大な「廃炉」について、自らの意思を持たない候補者と断定できます。この状況は、1週間待ったとしても、解決するとは思えないと判断しました。

今回、「一本化」を願う声に応えて、たいらゆきおから「一本化」にむけた政策協議を持ちかけたが、残念ながら、候補者自身が「廃炉」についての見解をもっていない状態での政策協議は成立しないと考えました。